

## 令和元年度 病害虫防除指導情報 第5号

津軽地域でリンゴ黒星病の初発が5月13日に確認されました。  
～園地を見回り、発病葉・発病果を摘み取り、「落花10日後頃」と  
「落花20日後頃」の薬剤散布を徹底しましょう～

### 1 黒星病の発生状況

- (1) 県予察ほ（りんご研：ふじ無防除樹）における初発確認は平年より1日早い5月13日であった。また、5月15日現在の県予察ほの発病葉率は、9.6%と概ね前年並となっている（図1）。
- (2) 5月9～16日にかけて実施した巡回調査及び地区予察ほ調査において、津軽地域42園地のうち3園地（発生園地率7.1%）で発生が確認された（図2）。これまでの気温推移と降雨の状況等から感染時期は4月25～27日頃と推定される（図3）。  
なお、5月15日に実施した県南地域の巡回調査などでは発生確認されていない。
- (3) 今後の発生予想  
越冬落葉の子のう殻から飛散する子のう胞子のほか、今後は発病葉上に形成される分生子が伝染源となる。5月下旬は曇雨天の日や濃霧の日が多くなると予想されること、また、梅雨入り（平年6月14日）も近いことから、発病葉がみられる園地では、新梢葉や幼果への急激な感染拡大が懸念される。

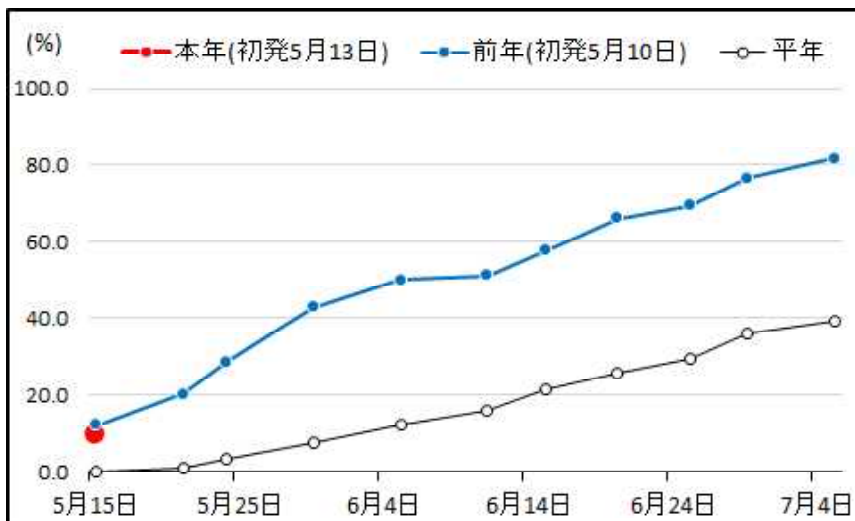


図1 県予察ほの発病葉率の推移  
(りんご研：ふじ無防除樹：5月15日現在)

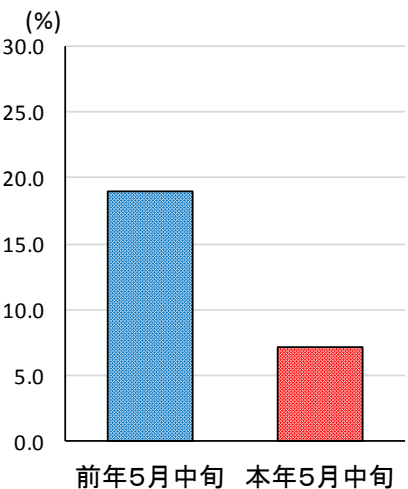


図2 津軽地域の発生園地率  
(一般防除：5月9～16日調査)

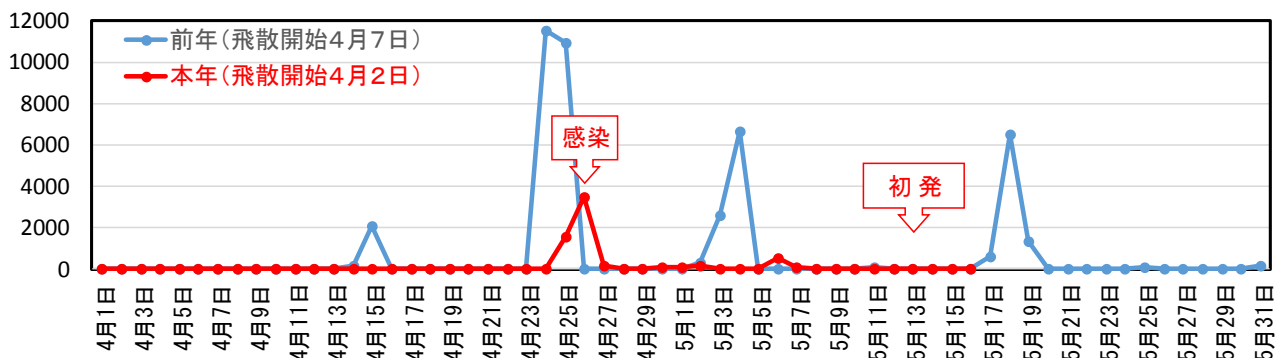


図2 リンゴ黒星病子のう胞子の飛散状況（本年値は5月15日現在、りんご研）

注）具体的な胞子の飛散数は、アップルネット（病害虫防除情報）に掲載しています。

## 2 防除対策

### (1) 耕種的防除

葉裏にも発生がみられるので、園地の発生状況を丁寧に確認し、発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める等して適正に処分する。

### (2) 薬剤散布

ア『ふじの落花10日後頃』と『ふじの落花20日後頃』

散布間隔は前回散布から10日間を目安とし、チウラム剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍液、又はジマンダイセン水和剤600倍液を散布する。

イ 散布むらを生じないように適切な量を丁寧に散布する。

ウ 散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。曇雨天が続く場合には晴れ間を見計らって散布するなど、散布間隔は10日以上開かないように注意する。

エ 梅雨入り（平年6月14日頃）等、今後の降雨の状況によっては、落花20日後頃以降も感染するおそれがあることから、薬剤散布を継続して行う。

オ 事前散布の徹底により、りんご防除暦又はりんご生産情報よりも散布回数が増えている場合は、各農薬の成分総使用回数以内で使用する。

表 リンゴ黒星病の防除薬剤

（平成31年度青森県農作物病害虫防除指針より抜粋）

重点防除時期	散布量 (リットル/10a)	薬剤名	FRACコード	散布倍数	使用回数
ふじの落花10日後頃 (5月下旬)	350	チウラム水和剤※	M03	500倍	5回以内
		又は、ジマンダイセン水和剤	M03	600倍	3回以内
ふじの落花20日後頃 (6月上旬)	420	チウラム水和剤※	M03	500倍	5回以内
		又は、ジマンダイセン水和剤	M03	600倍	3回以内
6月中旬頃	500	アントラコール顆粒水和剤	M03	500倍	4回以内
		又は、パスポート顆粒水和剤	M05	1000倍	3回以内
		又は、チウラム水和剤※	M03	500倍	5回以内
		又は、有機銅水和剤※	M01	—	4回以内
		又は、オキシラン水和剤	M01、M04	500倍	4回以内

注) ふじの落花日は、津軽地域で5月14日頃、県南地域で5月16日頃である。

※チウラム水和剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル

有機銅水和剤：キノンドー顆粒水和剤（1000倍液散布）、オキシンドー水和剤80（1200倍液散布）

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

#### 《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6  
TEL:017-729-1717、FAX:017-729-1900 担当 主幹 柳野利哉